

一般財団法人 滋賀県民間社会福祉事業職員共済会
地域共生型社会推進事業助成金

事業完了報告書（公開用）

1、概要

報告日	西暦 2021 年 4 月 26 日
報告者	田中恵美
助成団体名 (所属団体名)	ちいさいおうち
団体住所	〒 524-0013 滋賀県守山市下之郷 1 丁目 6-72
団体電話番号	070 - 8534 - 0562
代表者 (助成対象者)	岡村佑子
助成対象事業	子どもの健全育成と家庭・子育て支援事業
事業（助成）期間	2019 年 4 月 1 日 ~ 2021 年 3 月 31 日
事業費総額	8,772,740 円
助成金総額	1,000,000 円

※住所・電話番号等は団体のものを記載し、個人情報に関わることは記載しないでください。

次ページ以降に「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」を簡潔に記載してください。
注意事項

- ①共済会ホームページに掲載しますので**個人情報の掲載は禁止**します。
- ②「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」は**合計5ページ以内**で作成してください。
- ③**写真の掲載は原則禁止**しますが、どうしても必要な場合は最小限度に留めてください。
- ④写真を掲載される場合は**必ず撮影対象の方に事前に了承を頂く**ようお願いします。
- ⑤必ず Word ファイルのまま shigakyo@cello.ocn.ne.jp へメールにてお送りください。

2、事業内容

◎親子クラス

母子の孤立解消のために、3歳未満の子どもと保護者が集い、触れあいながら参加者の交流や親子の絆を深めるクラス。

◎乳幼児教育サポート講座

家庭の中や保育・教育現場で、大人たちがより子どもたちに寄り添いサポートできるように、シュタイナー教育に基づき、子どもの発達段階を深く学び理解する講座。

◎ようちえんクラス（幼児教育施設）

満3歳から就学前のお子さまをお預かりし、整った生活リズムと落ち着いた環境で過ごすことで、心の安定と健やかな成長をサポート。

3、事業成果

◎親子クラス

2019年、初めて園に来た子供たちは、最初は緊張して母から離れられない事も多いですが、毎回継続して来ること、場所や遊びに慣れて「ここは安心して遊べる場所」だと認識してくれたようです。

そんな空間で木や羊毛などの自然素材のおもちゃに積極的に触れ、子ども自らが興味をもって集中して遊ぶ姿は、保育者も保護者もとても楽しく穏やかになれる時間です。

また、自然素材の手作りのおもちゃは、大人も子どもも癒されます。

整えられた空間で、お母さんの存在を感じながら安心して自分の遊びに夢中になることを、保護者はおもちゃを押し付けたり口や手を出したりすることなく見守ります。子どもの自主性を育むことを親たちも学んでいきました。

子どもは小さくても「模倣」します。

保育者や保護者がおもちゃを元あった場所に丁寧に片付ける姿を子どもたちは見て、まねていきます。

お母さんや周りの大人がお手本を見せてあげることで、子どもが自らおもちゃを元の場所に戻す姿が見られるようになりました。

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、6月からスタートした親子クラス。

3歳未満児をもつお母さんからは非常に期待されたのか、毎回6~8組の親子さんをお迎えして(時にはキャンセル待ちになるほど申し込みをいただいた月もありました。)、毎回続けて参加される方が多く見受けられました。

コロナの影響で、親子で自宅で過ごす毎日は母子ともに非常にストレスのたまる環境であったことが考えられ、安心して過ごせる場所として認識していただけた事を感じました。

親子クラスあとは15分程度の子育て相談の時間も設けました。

シュタイナー教育の観点から見る子どもの成長や、大人たちの日々の気持ちの持ち方や子どもとの関わり方等を伝えるプリント「親子クラスメッセージ」を、子育てに困ったことがあるお母さんたちに向けて少しでも参考になればとの想いで発行してきました。

来年度も親子クラスは月に1度の開催となりますが、親子の居心地の良い場所を継続して提供してまいります。

◎幼児教育サポート講座

2019年度、月に1度、9:30~15:30まで、シュタイナー幼児教育を学びました。

午前中…座学(託児あり) 午後…手しごと/歌と手あそび

座学では『霊学の観点からの子どもの教育』ルドルフ・シュタイナー著と、『シュタイナー幼児教育手帖』日本シュタイナー幼児教育協会 の2冊をテキストに、講師からの解説を交えながら、0歳から7歳までの子どもの発達や、大人たちがどのように子どもを守り、導いていくかについて学びました。

手しごとではシュタイナー教育で大切にしている自然素材(多くは毛糸や布・羊毛)を使っておもちゃや人形を作ります。

大人たちが大切に手作りした人形を、子どもたちは自然と大切にします。

大人たちも、自ら作る事でもの作りの楽しさや、使い捨て社会の中で、ものを大切に使う事について改めて考える機会となりました。

歌と手あそびでは、普段子どもと一緒に楽しむ歌と手あそびが、子どもの発達にどうつながるのか、大人たちは歌と手あそびにどう向き合うのが良いのかを学びました。

大人同士で手あそびをして、自分も触れてもらう事を体験する事で、大人が子どもに《してあげる》のではなく、《心を込めて一緒に楽しむ》ことの大切さを学びました。

2019年度、シュタイナー教育への学びを深め、保育現場やご家庭で取り入れてもらえるようにと開催させていただいていたサポート講座ですが、2020年度はコロナの影響でスタートできず、残念ながら中止することになりました。

今年度は受講者たちが自分たちで作り上げる人形劇を最終課題としたのですが、またチャンスがあれば来年度以降チャレンジできるだろうと思います。

講座を受講し、実際の子どもたちの教育活動をより理解していただき、手仕事への魅力や手遊びの楽しさを感じていただくことが出来たのではないかと思います。

2019年度、ちいさいおうちようちえんクラスに通う保護者達も学びを深め、その学びが力となり、さらにちいさいおうちを維持発展するために法人化への活力につながったのではないかと思います。

◎ようちえんクラス

2019年度から、新しい園舎でのスタートとなり、始めのうちは新しい場所に慣れる所から始まり、新入园児の獲得に手が回らず7名でのスタートでした。

毎月、継続的に説明会を行う事により、2学期から徐々に園児の増加があり、子どもたちも友達がふえる事で、遊びの幅が広がり、コミュニケーションも増えていきました。

園児が増える事でトラブルも増えましたが、大人の都合に合わせて子どもたちを従わせるのではなく、子ども同士が自分の力で様々なトラブルを乗り越える事ができ、思いやりに心を育んできました。

少人数・縦割りクラスの良さを活かし、みんながひとつの大家族のように、お互いに思いやり、支え合う関係性を築く事ができました。

地域の方とも、2019年度が始まる前に行った住民説明会より温かく見守って頂き、2月には自治会館での獅子舞に招待頂きました。

地域の方との交流の中で、なかなかできない体験をさせて頂きました。

また、園舎の前の畑をされている方とは日常的に挨拶をさせて頂いたり、季節の野菜が育つ過程を見せて頂いています。

少しスペースを使わせて頂き、お花や野菜を育てる経験もさせて頂いています。

核家族化が進む中、こうした地域のご年配の方との交流は大切な経験です。

園舎から少し歩いた所にある畑では、サツマイモや枝豆などを自分たちで植え、水をやり、収穫するまで、普段の生活では経験出来ない体験をすることで、食べ物を大切に作る気持ちや、自然に感謝する事を学んでいます。

大きな園とはひと味もふた味も違う体験をする中で、子どもたちの表情は生き生きとしています。

2020年度は担任と保育内容が変わり、コロナの影響もあって落ち着かない中でのスタートでした。(4月は休園、5月から始まりました。)

働く人もそうでない人も子どもを預けられるように、短時部(14:30まで)と長時部(15:30まで)を選択出来るように体制を整える事ができました。

(長時部は夏休みも10日程預かり保育あり)

働く人は幼児教育無償化の制度を利用する事が可能となりました。

そんな変化の中でも、1日のリズム・1週間のリズム・ひと月のリズムを大切に繰り返す中で、7月に初めて取り組んだ【夏祭り】のころから、落ち着いた中で想像力豊かな遊びの展開がみられました。

二学期から満三歳の子どもたちの途中入園もあり、4.5歳の子どもたちはちいさい子たちのお世話をしたり、遊びをリードしたりする姿が見られました。途中入園の満三歳児さんたちも、お兄さんお姉さんの影響で言葉数も増え、トラブルになることも多々ありますが、お友達と一緒に遊べるようになってきました。少人数・縦割りクラスだから、子どもたちは兄弟(姉妹)のように安心して楽しく過ごせる、もう一つのおうちとして、続けていきます。

子どもの数が減り、兄弟姉妹の数も減る今の日本社会の中で、大家族のように過ごすことはとても意義のあることで、子どもたちは落ち着いた秩序ある空間でイキイキと過ごしています。

地域の皆さんからも本当に温かく見守っていただきました。

下之郷遺跡のある下之郷史跡公園では、広い芝生の広場で思いっきり走ったり、縄跳びの練習をしたり、たくさん身体を動かす遊びができました。

自治会の皆さんにも、今年も獅子舞にお誘いいただき、今年も参加させていただきました。

ご近所の方にも畑のお世話をさせていただいたり、野菜のおすそ分けをいただいたり、散歩中に出会うと笑顔で声をかけていただきました。

サツマイモの収穫もできました。

園前の畑では、季節のお花がたくさん咲き、子どもたちが摘んでは園に飾ります。畑の一角には砂場も作り、そこは時には工事現場になり、女の子たちのキッチンになり、山になったり川になったり。子どもたちの素晴らしい想像力を見せてくれます。

たくさんの方に支えてもらいながら、2020年度も子どもたちは大きく成長し、3月には4人の子どもたちが卒園していきました。

3年間シュタイナー教育のなかで大人たちに守られ安心して成長してきた彼らのこれからが楽しみです。

4、今後の課題など

◎親子クラス

2019年度の始めは、昨年度に申込みをしていた人が予定を忘れてしまい、連絡無く来ないという事がありました。

2020年度はより丁寧な案内を心がけて取り組みました。

コロナの影響で、小さな子どもを連れて出かけられる施設が減った状況で、参加の方にはとても有意義な時間を過ごしていただくことができました。

定員も以前より減らし、密にならない状態を作ったことでお断りしないといけない回もありましたので、別の形で親子参加のクラスができないかと検討中です。

来年度もより心地よく過ごしていただくために、場づくりや内容もブラッシュアップしていきます。

◎幼児教育サポート講座

2019年度の講座を受講し、実際の子どもたちの教育活動をより理解していただき、手仕事への魅力や手遊びの楽しさを感じていただくことが出来たのではないかと思います。

ちいさいおうちようちえんクラスに通う保護者達も学びを深め、その学びが力となり、ちいさいおうちを維持発展するために、法人化への活力につながったのではないかと思います。

2020年度、コロナの影響で中止を余儀なくされた講座ですが、来年度は毎月はできなくても、お母さんたちの子育ての役にたつような内容の講座やワークショップも企画していきます。

2020年度に目標としていた人形劇も、コロナウイルス感染症が落ち着いた際には再度取り組んでいけたらと考えています。

◎ようちえんクラス

この2年間、小さな園でみんなが家族のように過ごす毎日は、子どもたちにとってかけがえのないものとなりました。

コロナウイルス感染症対策は今後も十分に行いながら、子どもたちの心と体の成長をサポートしてまいります。

新年度に向けて園児募集がなかなか思うようにいかない事が毎年ですので、保護者さんたちの力もお借りしながら、広告も活用して広報活動にますます力を入れていきたいと考えています。

今年度は幼児教育無償化を利用された方、されない方が半々くらいでしたが、来年度は多くの方に利用してもらえるように周知をして参ります。

まだまだ未熟な園ではありますが、子どもたちがイキイキと社会に羽ばたいていけるような心と身体の手台づくりのサポートをしていきます。

2021年、ちいさいおうちは【一般社団法人 滋賀シュタイナー ちいさいおうち園】として、新たなスタートをきります。

これも、地域共生型社会推進事業の助成を受けることができ、サポートしていただいたおかげです。

法人化をすることで、事業の幅も広げられると考えています。

次年度以降も、永く地域に愛される園として、周りの皆様に支えていただきながら、子どもたちの大切な子ども時代を守り続けていきたいです。

ありがとうございました。